

## 今日の説教のポイント <ヨナ書1章>

### ①旧約聖書の神様は怖い？ ヨナ書を読めばその思いは変わる。

「旧約聖書の神は怖い」、そう言われる方はこのヨナ書を読んでほしいと思います。特に、この書の最後に記されている神様の言葉、神の民イスラエルを苦しめたアッシリアの首都ニネベの人々を何としても救いたいという熱い言葉を（4:11）。待降節の間、このヨナ書を通して、イエス様をお与え下さった聖書の神様を見つめて行きます。

### ②聖書の神を知らない船員たちの方がヨナよりずっと優しい！？

ヨナ書1章を読むといつも感じるがあります。聖書の神様を知るヨナのよそよそしさに比べ、人情味あふれる異邦人船員たち。ヨナのせいで嵐が起こったことが分かっても、できる限りヨナを救おうとする彼ら。それなら、信仰なんて持たなくていいのでしょうか？

### ③なぜヨナは船底でぐっすり眠れたのか？ 神から逃げながら、妙な落ち着きを感じさせられるヨナ。 そこに何を見るか？！

もう一つ感じる事、それはヨナの妙な落ち着きです。船員たちは嵐の中で生き延びるために必死でバタバタですが、ヨナにはそれがありません。嵐が来て大揺れのはずなのに船底でぐっすり寝込んでいます。神様から逃れられたことから来る安堵感と疲れのせいと考えたりしますが、どうも納得できません。このヨナ書を記した信仰者は何を考えているのでしょうか？ 何を見つめているのでしょうか？

### ④信仰、それは私たちの生きる土台が固く据えられること。

異邦人の船員たちは、懸命に生き抜くことに励み、情にもあつい人たちでした。しかし、嵐が襲って来た中で右往左往し、各々の神に助けを祈り求めました。ヨナはそうしませんでした。一見、ヨナの方が不信仰のようですが、彼は知っていたのです、聖書の神様が全てを支配しておられることを。ヨナはその神様に全面降伏し、立ち帰らせられるです。聖書の信仰を持つこと、それは本当のことを本当に真剣に問題にすることです。そうすることによって真の神様に立ち帰って行くことです。そうすることによって、私たちの生きる土台が固く据えられて行くことなのです。ヨナと神様のこの後を追いましょう！